

米谷栄二先生を偲んで

京都大学名誉教授

大阪産業大学学長

天野光三

米谷栄二先生は本年7月17日、満88歳を間近にして永眠されました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

終戦直後の荒廃が続いていた昭和23～25年当時、まだお若かった米谷助教授に私はご薫陶を受けました。当時の京大土木工学科は力学系のハードな学問が中心で、計画系では唯一、都市計画の授業があるだけでした。

米谷先生は昭和33年からの渡米によって交通工学・交通計画の理論と手法を日本に持ち帰られたパイオニアでした。同時にアメリカで進歩していたORを都市計画に採り入れようとする研究も行われていました。

昭和38年、京大工学部に交通土木工学科が新設されました。そこには都市・地域・交通など、計画系の講座が一举に五つも新設され、これは画期的なことでした。環境問題のニーズを予見してすでに昭和34年に設置されていた衛生工学科とともに、石原藤次郎教授と協力して、今から40年も前にすでに社会工学、総合科学として都市問題を上げる必要性を見通しておられたのです。

中央では日本学術会議会員、道路審議会委員、本四公団管理委員などのほか、その後の国土計画論のトリガーとして役立った、佐藤内閣の「日本列島の将来像」のコンペでは鈴木雅次グループの中心的存在でした。

地方では、近畿圏のほぼ全ての府県の都市計画行政に貢献されました。とくに京都府都市計画地方審議会会長として、住民反対運動が吹き荒れた昭和40年代のあの厳しい時代にも都市計画事業の推進のために毅然として対応しておられたお姿を審議会の席上で学ばせて戴きました。

先生は公的な場でも正論をズバリと直言される、いくつものお言葉が今も印象に残っています。

私は昭和42年、はじめて留学することになって



故 米谷栄二氏

本会の名誉会員米谷栄二氏には平成11年7月17日永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

「先生、会話練習機を買いました。」と言ったら「君、練習機を買っただけでは喋れないよ。」と遠慮もなく言われましたが、何かと忙しくてとうとう先生の予言通りで出国の日を迎えてしまいました。

また、昭和43年に「ピッツバーグ大学でサマーセッションの講義を担当しないか」との話があり、当時新米教授であった私の給料は百ドルそこそこ、向こうでは3ヶ月で3千ドル出すという。喜び勇んで承諾の返事を出したいと言ったところ、「駄目だ。往復の航空運賃はどうするのか」と言われました。そんな厚かましいことを言ったら断られるに違いないとヒヤヒヤしながら、ご指示の通り「航空費も出してくれ」と手紙を書いたら「それもOK」となり、当時往復で2千ドルもかかった航空運賃分が先生のおかげで助かりました。

これはほんの一例ですが、公私にわたって弟子達の面倒をよく見て下さる一方で研究室では厳しい方で、公私をはっきり区別されました。

学生の身になって気さくに相手をして下さる奥様のおかげもあって、先生のお宅には研究室の多くの学生たちが出入りさせて戴きました。その人達が育って、私がすぐに数えられるだけでも20数人を超える国立・私立の大学教授をお育てになりました。

今でこそ都市計画・地域計画・交通計画など、種々の学会が多くの研究者を集めて盛大になりましたが、昭和30年代から約30年間にわたって米谷先生は土木の分野でのこれらの計画系の生みの親、育ての親であり、新しい学問分野をつくり、体系づけてこられた大きい功績者であります。

ありし日の先生を追憶しながら、今はただ御冥福をお祈りさせて戴くのみであります。

米谷栄二先生のご業績

京都大学教授

飯田 恭 敬

米谷栄二先生は平成11年7月17日に逝去されました。享年87歳でした。先生は明治44年（1911年）9月20日、神戸市兵庫区西出町で出生され、昭和9年に京都帝国大学工学部土木工学科を卒業後、講師、助教授を経て、昭和31年教授となられ、昭和50年停年退官により名誉教授になりました。昭和50年から昭和52年まで岡山大学教授、昭和52年から昭和57年まで福山大学教授を勤められました。大学外においては、日本学術会議会員、土木学会副会長、日本都市計画学会理事、日本OR学会理事、日本地域学会副会長、建設省道路審議会委員、本州四国連絡公団管理委員、阪神高速道路公団管理委員、近畿圏整備審議会委員の他、多数の地方自治体における各種審議会、委員会の会長および委員長をされ、社会に多大の貢献をなされています。昭和59年11月には勲二等瑞宝章を受章されました。

米谷先生は土木工学における計画の重要性を見通され、昭和33年に京都大学で「土木計画」の講義を開設されました。おそらくわが国ではこれが最初のものと思われ、その後は各大学で「土木計画」の講義が広まっていった。同時に「土木計画」に関係する研究も活発に行われるようになり、昭

和41年には土木学会の中に「土木計画学委員会」が設立されて今日に至っている。また、先生はご自分の専門分野の立場から、交通施設の整備や計画に対して科学的アプローチの必要性を早くから説かれており、その熱意が実って京都大学において昭和38年に交通土木工学科の設立を実現されている。講座構成は、運輸交通計画、交通施設計画、路盤基礎工学、路線施設工学、起終点施設学、都市交通工学からなり、交通施設にかかわる問題を総合的に教育研究する組織となっている。

一方、研究面においては「交通工学」あるいは「追従理論」が特に有名である。先生が昭和33年に渡米されたとき、ゼネラルモーターズ研究所のハーマン博士のグループとほぼ同じ研究内容であることを知って驚くとともに、相手側から京大モデルを高く評価されて大変喜ばれたそうである。このことがきっかけとなって、交通工学の国際研究交流が必要であるとの認識から、ハーマン博士らとともに3年ごとに開催されるISTTT（国際交通流理論シンポジウム）が始められたと聞いている。14回目のISTTTは今夏にイスラエルで開催されたが、開始冒頭に米谷先生のこれまでの交通工学分野における業績に対して、ハーマン博士（昨年逝去）とともに黙祷がささげられている。

交通分野ではこの他にも、交通需要の推定理論、道路・港湾・空港の計画手法、道路交通流の理論モデル、都市高速道路の流入制御理論、高速道路の料金制度など多くの顕著な研究業績をあげられている。

米谷先生は交通工学のみならず都市計画や地域計画においても理論面と実際面において優れた研究成果をあげられ、国際的にも高く評価されているのは周知のとおりである。

先生の人柄については、温厚篤実そのものであり、寛容と慈愛をもってこれまで幾多の俊才を育成されてこられました。私達門下生一同にとりましては、心から誇りに思う先生でした。21世紀を目前に控え、先行きが不透明な状況になっていますが、先生から学ばせていただいた先見性、獨創性、洞察力、包容力を常に心がけておれば、新しい時代の教育研究の展開にも対応できるのではないかと考えております。

ご冥福をお祈り申し上げます。